



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

## 日吉ダム管理所

# 「森の京都」に位置する ダム流域の植生

### 森の京都とは



森の京都

日吉ダムの位置する京都府の中部は、森や木と関わる中で、豊かな生活・文化が育まれ、発展してきた地域であることを背景に、森・川・里の織りなす景観や環境・文化・生活を多面的な角度からとらえ未来に受け継ぐとともに、発信し、多角的に活かす地域となることをめざす「森の京都」構想の区域に位置づけられています。

### 57箇所目の国定公園に指定

日吉ダム流域を含む地域は、平成28年3月25日「京都丹波高原国定公園」に指定されました。地域内のほぼ中央部を東西に中央分水界が通り、北側は由良川水系に、南側の大部分は桂川水系に属し、自然性が高い森林や河川を有し、豊かな生態系が形成されています。また、かやぶき屋根の特徴的な民家が多数残されている集落など、自然と寄り添う暮らしと、伝統文化を長く世代を継いできた歴史を感じることができます。こうした多様な生態系が文化的景観と相まって雄大で美しい景観を有する、傑出性が高い風景地であることが評価されました。

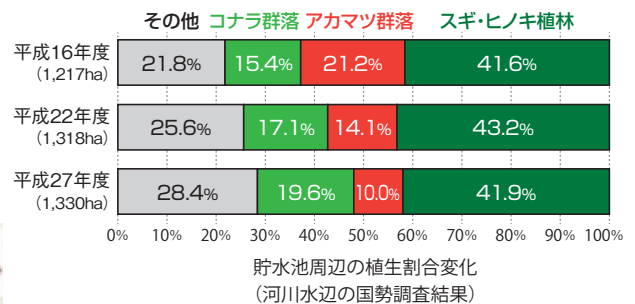


京都丹波高原国定公園区域図

### 森(流域)の植生

日吉ダム流域の自然植生はシイ・カシ等の広葉樹林と推定されますが、現在では小規模な社寺林等を除いてほとんどなく、古くから人為的な影響が加えられたため代償植生に置き換わっています。植生の分布状況を見ると、スギ、ヒノキ等の植林が最も広く、次いでアカマツやコナラ等から成る落葉広葉樹林が分布します。アカマツ林は山頂部や尾根筋を中心とし、逆に、スギ等の植林地は谷沿いに発達した沖積地等の水湿と土壌条件に恵まれた立地に分布しています。

近年は、シカの食害等による森林下層植生の衰退や、マツ枯れ、ナラ枯れによる森林構造の変化などが懸念されています。日吉ダムが定期的に行う河川水辺の国勢調査においても、貯水池周辺にて食害痕跡やアカマツ林からコナラ林への遷移が確認されています。引き続き、こうした調査を通じて流域の環境把握と監視に努めてまいります。



貯水池と周辺植生